

2018年度 事業報告書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

I. 主な事業の概要

本年は、定款の改定を行い、事業の目的を「旧江戸城及びその城下町の歴史的伝統と文化的価値を調査・研究し、その成果や今日的意義を普及・啓発し、提言することにより、我が国の文化・芸術の振興及び地域社会のより良き発展に寄与することを目的とする。」と定めた。

これらの事業の着実な推進をはかるために、公益事業の明確化や事務局基盤整備及び役員の自己責任経営等の法人自治に向けて、事業と組織の基盤整備を進めた。

1. 2018年7月、「江戸・東京歴史文化ルネッサンス5ヵ年基本計画(案) (以下、「基本計画(案)」という。冊子参照)」を策定した。

この策定の背景は、歴史上、初の本格的な学術・調査、研究が必須であるとの認識から、学識者等により、半年間にわたる準備会議を重ねて策定したものである。

また、2022年の完成を目指す「江戸・東京歴史文化ルネッサンス基本構想(仮称)」の策定に向けた際の「案」としても示したものである。

「江戸・東京歴史文化ルネッサンス基本構想(仮称)」の完成時には、産学官民の団体等が支える「国家的プロジェクト等(仮称)」の設置に向けても提言していく予定である。

本年、11月には、愈々「基本計画(案)」を基にして、歴史上、初の本格的な学術・調査、研究事業の調査活動がスタートした。

2. 普及・啓発及び提言事業：

一般市民や産学官民の団体を対象に、機関誌「江戸城ルネッサンス(再生・活用)」の頒布やセミナー・シンポジウム等の開催予定や報告等をホームページ等を通し、広く社会一般に公開した。

また、参加者との意見交換やアンケート等により、賛同や評価を着実に得ることが出来た。

3. 会員拡充や寄付金募金：

一般市民や産学官民の参加の機会を増やすとともに、学術・調査、研究費用の支援や事務局基盤整備を進めるために、会員拡充や寄付金募金を行った。

2018年度は、会員をはじめ多くの皆様から、4,254,000円のご寄付を頂いた。

また、専門スキルを活かした学識者、有識者、ボランティア等の無償奉仕活動及び物品の贈呈等によるいずれも多大なる貢献があった。

II. 具体的な活動内容

1. 学術調査・研究する事業

「基本計画（案）」の策定の背景については、旧江戸城及びその城下町等に現存する歴史文化遺産の保存・整備状況及び失われた歴史文化遺産の調査により全体像の把握等が必要であることから、歴史上、初の本格的な学術・調査、研究が必須であるとの認識から、学識者等により、半年間にわたる準備会議を重ねて策定した。

調査については、第一次基礎調査を11月に開始した。主な調査内容として、江戸城址関連の現存する遺構や建造物等の歴史文化遺産の分布や一覧表の作成及び景観行政に関わる文献の収集等を行った

2. 普及・啓発及び提言事業

一般市民や産学官民の団体を対象にして、下記（1）（2）のテーマによる、機関紙「江戸城ルネッサンス（再生・活用）」の頒布やセミナー及びシンポジウム等の開催等をホームページやメール等を通し、広く一般社会に公開した。

（1）広報・宣伝事業：

機関紙「江戸城ルネッサンス（再生・活用）」の発刊（各回1000部）、「基本計画（案）」を中心に、江戸・東京歴史文化に関わる情報提供を進めた。

- ①創刊号（3月）：「市民の夢と希望と誇りを次世代・未来に繋げていこう！
世界に評価される文化遺産を目指そう！」
- ②第2号（7月）：「市民が支える新しいまちづくり、
歴史文化遺産の見える化と保存と活用、復元に向けて」
- ③冊子の策定（7月）：「江戸・東京歴史文化ルネッサンス5ヵ年基本計画（案）」
- ④第3号（11月）：「歴史上、初の、本格的な学術調査、いよいよ始まる！」

（2）シンポジウム、セミナー等による交流事業：

一般市民や産学官民の団体や人々を対象に、毎回、約50名以上の参加により学士会館で開催した。アンケートでは、「大変良かった」「良かった」の声が約85%以上有り好評であった。

コーヒープレイクタイム等では参加者同士での懇親を深めた。

- ①第1回キックオフセミナー「江戸城の見える化」：7月
テーマ：「江戸・東京の文化財を活かす方策」
- ②第2回キックオフセミナー「江戸城の見える化」：9月
テーマ：「江戸東京歴史物語～近代東京のまちづくりと文化財～」
*講師は、1回、2回共、江戸都市史研究家 後藤 宏樹氏
- ③報告会：9月
テーマ：「江戸・東京歴史文化ルネッサンス基本計画書（案）」の策定に向けて
報告者：常務理事・事務局長

以上